



満開となった「はち植えサクランボ」を手入れする黒部さん

盆栽サクランボを量産

茶の間で、果樹園

寒河江

東京方面へ出荷めざす

茶の間で赤い実をつけたサクランボを觀賞できたなら「こんなアイデアで四年前から「はち植え」に取り組んできた寒河江市の農業青年が、盆栽用のわい性親類に成功した。すでに去年、試験的に出荷したところ大好評だったことから、ことしは結実した「はち植えサクランボ」を量産出荷することにし

この青年は寒河江市二栗の農業青年会一さだで、園芸二代の専業農家で、觀光果樹園で知られる三栗園主さくらんぼ組合にも参加する。栽培家、後継者の賢一さんの奨励で、研究に入った。加えて、不景の情勢のなかで、新しいサクランボ経営の道を探る試みでもあ

った。

サクランボは実がなるまで最低三年はかかる。白木の育成にまず一年、その上に腐き木して一年でようやく苗木となり、うまくいけば三年目に開花する。結果を思込んが五年は、出荷時期が成木と同じでは意味がないと、寒い季節をハウスで育ててきた。開花は一方

この結果、開花が一週間早かったのだが、開花状態は上々だった。商品化できるのは三年木から。高さが約三十センチ、品種は佐藤錦がほとんど。ことしの生育状態だと一はらに、多いので五十粒の実が見込まれる。これだと茶の間でミニサクランボが楽しめる。季節感あふれる盆栽といえる。

ことしは五百から六百ほどの出荷を予定しており、一はち二子内から五子内、東京市場に初めて出荷することになっている。